

福祉レクリエーション・ワーカーの役割と今後の課題

—社会福祉法人妙光福祉会・A特別養護老人ホームの事例を基に—

○金須雄一（妙光福祉会）、南條正人〔東北文教大学短期大学部〕、高崎義輝〔仙台大学〕

キーワード：介護施設、福祉レクリエーション・ワーカー、介護福祉士

公益財団法人日本レクリエーション協会が主導して、“福祉レクリエーション・ワーカー”という福祉分野でのレクリエーションスペシャリストを育成してきた。しかし、その福祉レクリエーション・ワーカーが全国でどう活躍し、どのような仕事をしているのかといったことは、あまり理解されていない。

本研究では、福祉レクリエーション・ワーカーの有資格者を採用し、先駆的な余暇支援の取り組みを進めている社会福祉法人妙光福祉会・A特別養護老人ホームの事例について、その取り組みを報告したい。

社会福祉法人妙光福祉会は、利用者の立場に立って豊かな自然環境の中で「安心」「快適」「やすらぎ」のある生活を支援することに努めるという理念の基、介護サービスをすすめている法人である。当日のポスター発表では、実践してきた年間活動の種類、利用者の参加状況などを紹介し、A特別養護老人ホームにおける福祉レクリエーション・ワーカーの役割と今後の課題を明らかにし、全国の福祉レクリエーション・ワーカーと情報交換をしたい。